

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

心 の め ば え

アヤと過ごすジイジの日記

<19>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

4歳9カ月 ターザンロープ②

公園の遊具ターザンロープで夢中になって遊んで、最後にはロープから手を放して墜落してしまったアヤ。その翌朝、アヤが息せき切つてジイジの家に来て来た。何かかと思つていると、真つ先に

アヤ 「ジイジ、アヤが昨日怪我したのはジイジのせいじゃないからね」
という。

ジイジ 「えっ、でもジイジがよく見てなかったからね」

と答えると、
アヤ 「ちがうよ。アヤがクッションのところで手を離れたから落ちたんだよ」と事実関係の確認をする。

幼児がこんなことに気づいて、ジイジの気持ちをおもんばかつて「ジイジのせいじゃないよ」などと言うのだろうか。どうせママが言わせているのだろっ、と思つてママに聞いたら、
ママ 「いえ、私、言つてませんよ」とのこと。

ママ 「昨日、ジイジと一緒に帰ってきたとき、アヤがあごに怪我をしていて、ジイジが心配そうにしていたので、『ジイジに心配させてしまったね』と話してただけですよ」

そうか、昨日家に帰ったときはママにターザンロープのことを報告するのに夢中で頭の中がいつぱいだつたけど、あとになってママから「ジイジが心配そうにしていたよ」と言われて、ジイジの気持ちには、はたと思ひ至つたのであろう。それで気になって、翌朝一番にジイジの家にやつてきて、「ジイジのせいじゃないよ」になつたのだらう。幼児らしい単純な反応ではあるが、自分の心に照らして他者の心を推測しているところを見ると、明らかにアヤの心の理論は正常に機能しているようだ。

他日、従兄のジュンちゃんをやつてきたので、ジュンちゃんのパパ、ジイジとバアバ、アヤのパパとママ、総勢7人でターザンロープ遊びをしにやつてきた。大人達はそれぞれの話題があるから、話に花を咲かせていたら、
アヤ 「みんな、見て！」
と大声で叫んでいる。ターザンロープで自分がかつこよく滑空するのを皆に見てほしいのだ。それなのにギャラリイが話ばかりして注目してくれないので不満なのだらう。

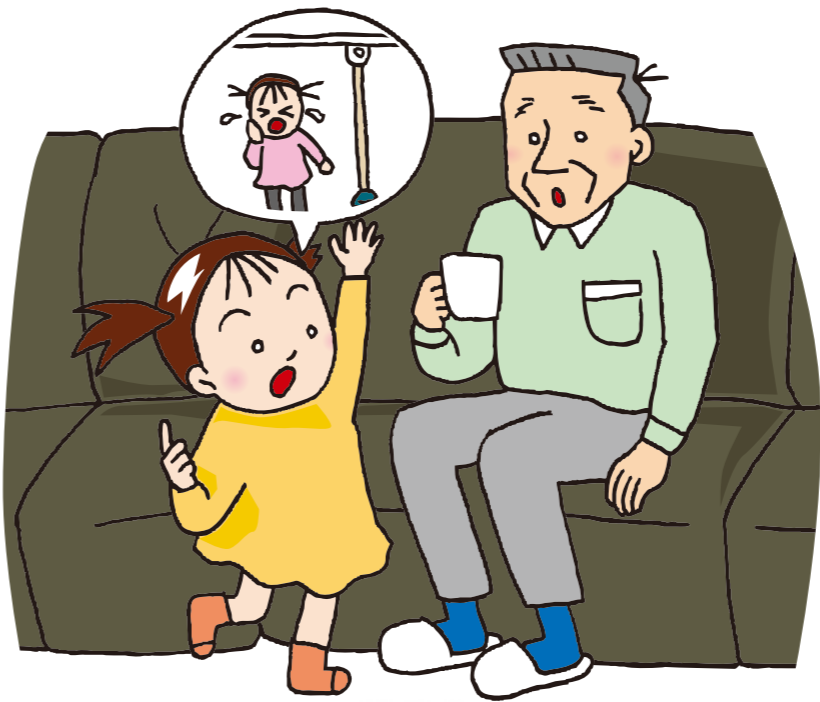
特に最近ロープに逆さまにぶら下がつて滑空する「豚の丸焼き滑空」を發明しているのだ。他者がどう思つて見ているかに関心があつて、自分の發明を披露して、かつこよく見せることで快感を覚えている。アヤの心の理論が少しずつ微妙に進化している。

ジイジの 気づき



幼児の心の理論は、着実に進化している。

「心の理論」についての章は、下のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスできます。



連載中の「心のめばえ」シリーズは、牟田のホームページでも読むことができます。<https://home.hiroshima-u.ac.jp/mutata/>

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、理学博士。京都大学助手、助教授、広島大学教授学長、福山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀樹のことば」（丸善出版）、「電磁力学」（岩波書店）、「量子力学」（裳華房）などがある。東広島市在住。

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係へ